

記者会見用資料

大和証券の持株会社化および
大和証券と住友銀行の戦略的提携について



平成10年7月28日

大和証券株式会社

基本理念

大和証券グループは、多様な事業から構成される。ビッグバンによって生まれた新たな競争環境の下、それぞれの事業の競争力と事業特性を改めて見極め、その上で固有の事業改革を行うことが急務であると考えます。

本体の証券業務を見ても、リテール事業とホールセール事業では、事業特性は明らかに異なる。従って、我々は敢えてこれらを分離し、各々に事業の改革と強化に当たる道を選択する。そして事業によっては、自前主義から脱却し、ベストパートナーと全面的に提携することによって競争力の強化を目指す。

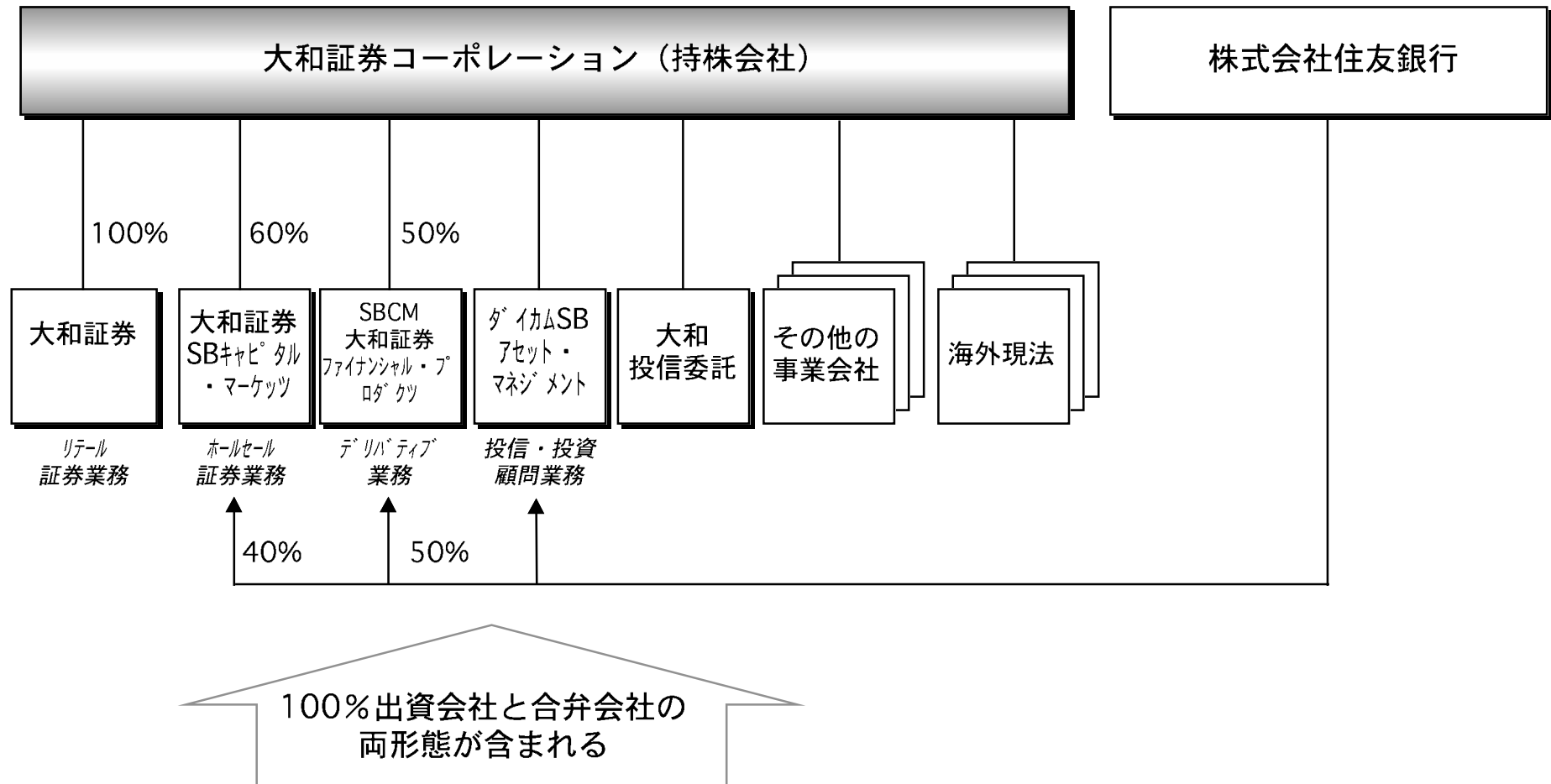
もちろん、それぞれの事業の独自性と自立性を追求する一方で、事業間のシナジー並びにグループとしての総合力を向上させることも重要であると考えます。その観点から、業界他社に先駆けて持株会社制度を導入する。

「自立した個性ある事業の連合体」、これが大和証券グループの目指す方向であり、今回の持株会社化ならびに戦略的提携の背景にある基本理念である。

基本方針

1. 1999年4月を目途に、大和証券株式会社は持株会社へ移行する
2. 持株会社傘下の事業会社のうち3社は、株式会社住友銀行との合併会社とし、さらに外資系との提携も視野に入れる
3. 各事業会社は、大胆な構造改革を行うと同時に、それぞれの事業特性に合わせた独自の経営手法を導入する

大和証券グループ構成図



注：大和証券コーポレーション、大和証券、大和証券SBキャピタル・マーケットは原良也が社長を兼任（予定）

持株会社への移行スケジュール（予定）

1998年12月	合併会社設立に関する住友銀行との最終合意の締結 ・株主間協定（当社・住友銀行間） ・営業譲渡契約（当社・合併会社間） ・新株引受契約（当社・合併会社間）
1999年 2月	臨時株主総会を開催 ・合併会社との間の営業譲渡契約書の承認 ・リテール証券会社との間の営業譲渡契約書の承認
1999年 4月 1日	当社持株会社化 合併会社の営業開始 リテール証券会社の営業開始

持株会社の概要と機能

持株会社の概要

1. 本持株会社が、現在の大和証券株式会社に代わる上場会社となる
2. 主に3部門から構成される
 - ・グループ経営企画部門
 - ・グループ財務管理部門
 - ・グループIR部門
3. 少数精鋭の組織とする。人員は最終的に100～200名

持株会社の機能

1. グループ経営企画
 - ・グループ全体の投資、資源配分に関する意思決定
 - ・新規事業戦略の策定
 - ・グループ全体の業務インフラに関する立案・調整
2. グループ財務管理
 - ・連結会計、連結開示
 - ・グループ全体の資金調達・資金配分
 - ・グループ全体のALM
3. グループIR
 - ・株主政策の立案
 - ・グループ全体のIR・広報活動

住友銀行との戦略的提携の背景と目的

背景

ビッグバンの進展により直接金融と
間接金融の垣根は低くなる



顧客ニーズに応えるために、直接金融と間
接金融の能力の融合が必要

金融サービス分野ごとに、外資も交
えた大競争が始まる



各々の金融事業が、プロフェッショナル
としての強みを持つことが必要

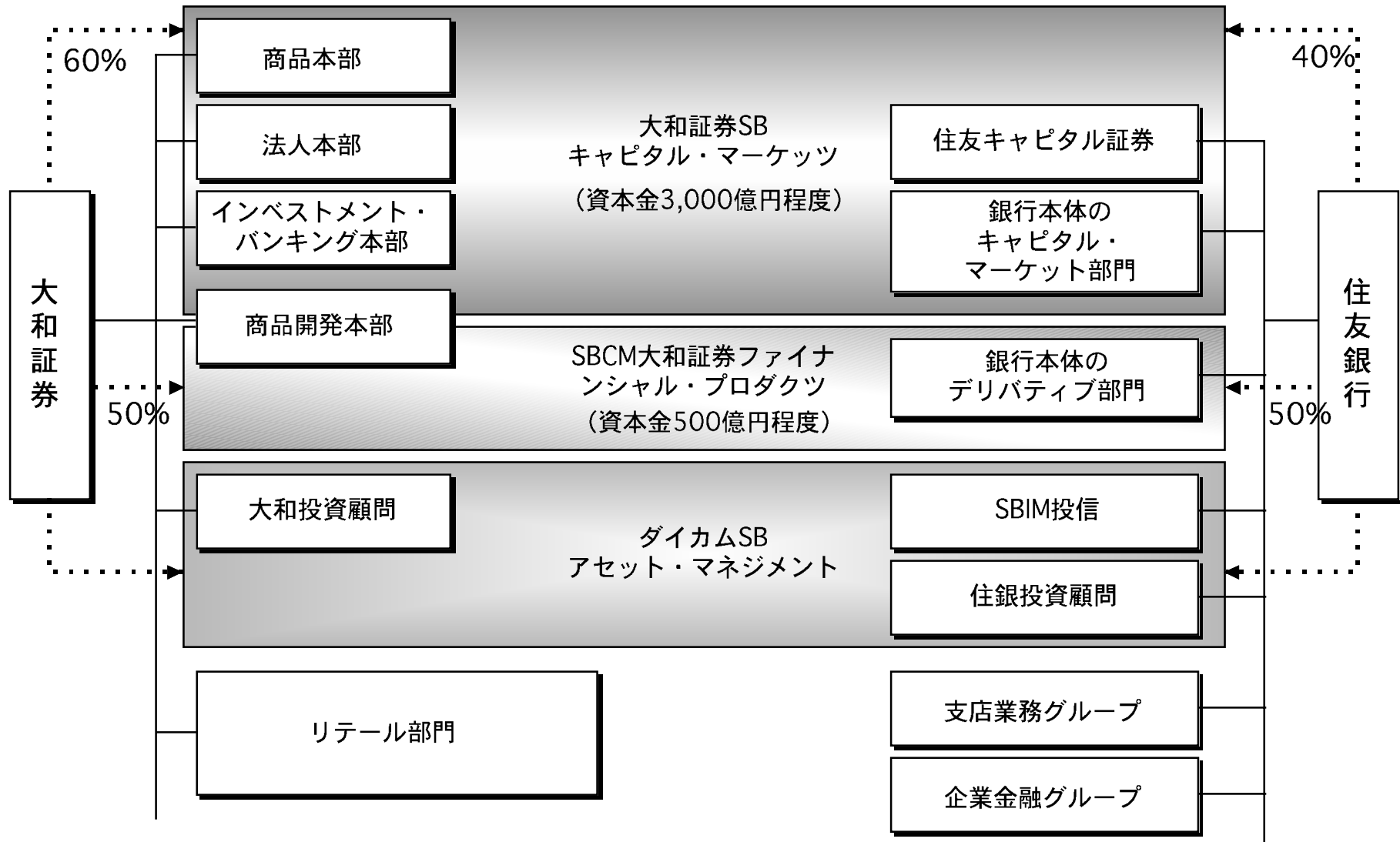


目的

大和証券と住友銀行の能力と事業基盤を融合し、かつ新しい経営手法を導入することによって、各々の金融事業分野ごとに最高水準のサービスを提供していくことを目指す

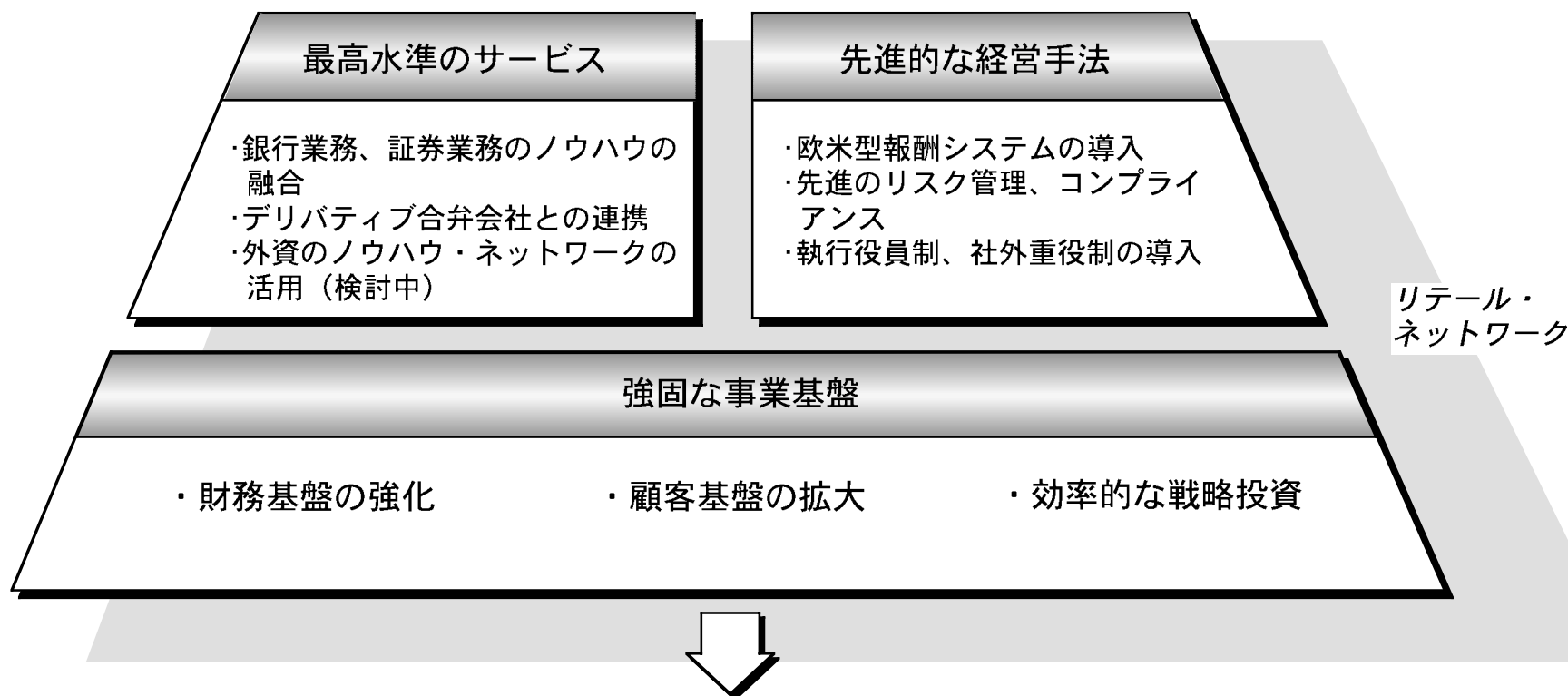
- ・ ホールセール証券事業： ハイクオリティで国内最強のホールセール証券会社を目指す
- ・ デリバティブ事業： 最高水準のデリバティブ・ハウスを作る
- ・ アセット・マネジメント事業： 投資信託の新しい市場を開拓していく

提携の全体スキーム



ホールセール合併会社の特徴

国内最強のホールセール証券会社



目標	立ち上げ後3年目（2001年度）：経常利益1,000億円 中長期的：ROE15%以上
----	---

これからのグループ経営思想

1. 持株会社の下、各事業会社は自立性を高め、それぞれの事業特性に合わせた組織運営や人事制度を導入する
2. 全事業会社を通して、実力主義や株主重視といった欧米流の経営手法を導入し、意識と行動の変革を促進する
3. 自社の得意分野を明確に選択し、経営資源を集中する。それ以外の分野は、スリム化・アウトソーシングを追求するだけでなく、場合によっては撤退する
4. 経営から現場に至るまで、プロ集団であることを目指す。従って、役員層においても有能な人材を外部から積極的に招聘する